

第127回 日本眼科学会総会 「第15回 公益財団法人一新会セミナー」

視機能の基礎と臨床

Public Interest Incorporated Foundation Isshinkai
Basic Principles and Clinical Applications of Visual Functions

日時・会場

第127回 日本眼科学会総会
2023年4月8日(土) AM7:45～AM8:45 (第8会場 東京国際フォーラム 1F ホールD1)

オーガナイザー

相原 一 (公財)一新会・東京大学
山下 英俊 (公財)一新会・山形大学
山上 聡 (公財)一新会・日本大学

視機能は3要素として光覚、色覚および空間分解能(視力)で構成される。この3要素に関する基礎および病態生理は、日常の眼科臨床において常に考慮される必要がある。

今回のセミナーにおいては、色覚および光覚に関するテーマを取り上げた。

講演

Session 1

■波長弁別閾値測定法の意義

蕪城 俊克 (公財)一新会・自治医科大学
大宮医療センター
澤 充 (公財)一新会・日本大学

色覚に関する臨床検査法は、仮性同色表(色相配列検査)と色光による検査法(アノマロスコープ等)に大別される。こうした検査法以外に波長弁別閾値測定法がある。

波長弁別閾値測定は、個人々の色認知を具体的に検査しうるものであるが、その測定法はプリズムによる波長分離などの複雑な光学系によって行われており、臨床現場での使用には大きな制約があった。

今回、臨床現場で使用可能な2系統からなる相同分光器による測定装置を開発し得たので、波長弁別閾値測定結果について述べる。

Session 2

■光覚と網膜疾患

小畑 亮 (公財)一新会・東京大学

視覚は、色覚のほかに視力、視野、光覚、調節力、および両眼視等で評価される。

光覚は光を感じその強さを区別する感覚で、主に桿体細胞により感受される。光感受性は明・暗順応状況により大きく変動し、暗順応検査などで評価される。色覚異常においては、暗順応・明順応異常を呈して夜盲や羞明を生じ、さらに視野障害を生じる。夜盲症は日常生活動作を低下させる重大な症状であるが、その原因疾患としては、網膜色素変性、先天性停在性夜盲、ビタミンA関連などがある。

本講義では、光覚および夜盲症に関する概説を行う。



後援：厚生労働省

共催：第127回 日本眼科学会総会
公益財団法人 一新会